

大人用

伝道地便り

2018年 第4期 南アジア太平洋支部

第1話「必要な人を知る」	ミャンマー
第2話「教会での実験」	カンボジア
第3話「神のために飛ぶ」	フィリピン
第4話「説教する医師たち」	インドネシア
第5話「毒を盛られた宣教師」	インドネシア
第6話「行方不明の妹のための祈り」	タイ王国



セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. 必要な人を知る

ミャンマー



サムエル・ソー
(南アジア太平洋支部総理)

ミャンマーで必要不可欠なもの、それは人脈です。どこの誰なのか、または何を持っているかではなく、「誰を知っているのか」ということが東南アジアの国では重要です。

しかし、地元のセブンスデー・アドベンチスト教会の指導者たちには、必要な人脈がありませんでした。ミャンマーの旧首都であるヤンゴンに、さらに大きな学校を建てるための認可が必要でした。生徒数は 650 人に達し、子供たちは 1975 年から使用されている 2 つの小さな建物で勉強していました。そして、教師たちは新たな生徒を受け入れることができませんでした。

学校を新築する許可を得るため、教会指導者たちはヤンゴン市当局に接触しました。でも、誰も提出された書類を承認しなかったようでした。市役所で働いている知り合いにも個人的に助けを求めてみましたが、それも無駄でした。

米国では、アドベンチスト世界教会の行政機関である世界総会によって新校舎の必要性が認められました。そして、ミャンマーが属す南アジア太平洋支部の要請が承認され、2012 年度の 13 回献金の一部が校舎建設のために用いられることにな

りました。

資金は集まりましたが、地元の指導者達は市役所に計画を承認してもらえるような人脈をまだ見つけられませんでした。そして、3 年が過ぎました。

それから、通常の総会で新しい教会指導者たちが選ばれました。しかし、新しい指導者たちも市役所への人脈がまったく無く、失望のうちに諦めかけてしまいました。状況的には不可能に思えました。

そのとき、ミャンマー出身で南アジア太平洋支部のサムエル・ソー総理が教会指導者達を優しく戒めて言いました。

「確かに、みなさんには必要な人脈がないかもしれませんが、適切な人を知らないかもしれませんが。」「でも、私達には神様がいます。私達が求めれば、神様は必ずこの状況を打破してくださいます。」そして、指導者達に祈って建築許可を新たに申請するように勧めたのです。

指導者達は祈り、それから市役所へ行きました。すると、ある女性が受付に座っていました。彼女は、彼らが小中高一貫校で有名なヤンゴンアドベンチスト神学校の代表として来たのがわかると顔を輝かせました。

「あの学校ですか！」と叫びました。「私もヤンゴンアドベンチスト学校で勉強したんですよ。あそこで教えている価値観や教育が大好きだったので、今は娘 2 人を通わせているんです。」

学校の建設計画を聞くと、彼女はすぐに必要な書類すべてが承認されるように手を打つと断言してくれました。「お手伝いしますよ。この計画がうまくいくように働きかけてみましょう。」と言いました。

そして、彼女は実際に行動を起こしてくれました。短期間のうちに、学校の校舎の建設工事が開

始されました。

そして 2017 年に 6 階建ての新校舎が神様に捧げられました。式にはアドベンチスト世界教会のテッド・ウィルソン総理、大勢の教師、生徒、そして教会指導者たちが参列しました。

ウィルソン総理は、常にイエス・キリストを教育の中心に据えるよう訴え、この学校が 500 万人もの人が住む賑やかなヤンゴンの大切な「都市伝道センター」だと述べました。

学校のウェスリー・ドウ財務部長は 2012 年 2 期の 13 回献金を学校に捧げてくれた教会員たちに、感謝の気持ちを表しました。

1 億 4000 万円の内、3,300 万円が 13 回献金から用いられました。そして 4,600 万円が個人の献金とミャンマーユニオンミッションの土地を売ったお金から、2,200 万円が世界総会の特別資金から、2,200 万円が南アジア太平洋支部から捧げられました。そして 550 万円が ADRA から捧げられました。

学校の目的は地域の光となることだ、とソー・レイ・バー校長は語ります。新しい校舎は 800 人の生徒が学ぶことが可能で、さらに古い校舎を使用するともっと多くの生徒が学ぶことができると彼は言います。現在、学校には 648 名の生徒がおり、そのうちの 28 パーセントがアドベンチストの家庭から来ています。

式に参列した支部のサムエル・ソー総理は、校舎の建築をまさに奇跡と呼びました。

「私達には、行政当局との繋がりはないかもしれませんが、われわれには何よりも大切な繋がりがあります—神様との繋がりです。」と言いました。

「エレン・ホワイはこういいました。『もし私達が器を提供するならば、神がお働きをなさいます。』（教会への証 9 巻、107 ページ）。私達が神様を信頼し、神様への信仰を持ち、そして神様を求めるならば、神様は私達を導いてくださいます。そして、神様はいつも私達と共にいらっしゃいます。これは、神様のお働きだからです。」

下記のリンクから、この物語に関する写真を見る

ことができます。

bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- ミャンマーには 223 の教会があり、教会員数は 3 万 920 人です。人口 5,241 万 4 千人の中で、1,695 人中 1 人が教会員だということです。
- ミャンマーには牧師を育成するための神学校が 2 つ、出版社、そして預言の声通信講座の学校があります。

2. 教会での実験

カンボジア



イン・ピーラ

ピーラは、19歳の時に神様を試すことしました。

カンボジアで2番目に大きな都市である、バタンバン市のセブンスデー・アドベンチスト教会へ通い始めて数か月後のことです。ピーラは、牧師がマラキ書3章10節にある「十分の一の献げ物をすべて倉に運び、わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために天の窓を開き祝福を限りなく注ぐであろう」という約束を読むのを聞きました。

そこで、安息日に献金箱が回ってきたときにピーラは1,000リエル（日本円で27円ほど）を献金箱に入れました。それは彼の所持金、すべてでした。

ところが翌日、どういうわけかピーラのお兄さんのフィランが突然10,000リエル（270円）をくれました。お兄さんは、カンボジアの正月やお盆にあたるプチュンバンという特別な行事の時にお金をくれることは時々ありました。でも、今まで何の理由もなくお金をくれたことはなかったのです。

ピーラは唖然としました。

しかし、それでもこれが神様からの贈り物だと

はまだ信じられませんでした。

次の安息日、ピーラはまた神様を試すことにしました。献金箱が回ってきたとき、また1,000リエルを入れました。今回はピーラのポケットには5,000リエルありましたが、それは、翌週のオートバイのガソリン代のために必要なお金でした。1,000リエルを献金して、ガソリンに必要なお金は足りなくなっていました。

「でも、結果的にはお金が足りなくなることはありませんでした」とピーラは言います。「その週に、友達や親戚が突然お金をくれ始めて、ガソリン代は十分足りました。お金が必要だと誰かに頼む必要もなかったのです。」

数週間後、ピーラに深刻な問題がおきました。教会がクリスマスプログラムを計画し、ピーラは15人の友人を招待しました。しかし、教会に行くために友達を3人ずつオートバイの後ろに乗せて運ばなければならなかったのです。

あともう少しで教会に着くというところで、警察に捕まってしまいました。カンボジアでは法律でヘルメット着用が義務付けられていましたが、誰もヘルメットを被っていなかったのです。

しかし、警察はヘルメットについては何も言いませんでした。その代わり、オートバイの所有権を証明する書類を見せるように言ったのです。ピーラはオートバイの持ち主であるお兄さんに電話をしましたが、そんな書類は当の昔に無くしたと言われてしまいました。

ピーラは不安になりました。警察はオートバイを没収し、泥棒として彼を告訴することもできるのです。いったいどうしたらいいのかわかりませんでした。

「その時、牧師が祈るようにと教えてくれたことを思い出しました」とピーラは言います。「そしてお祈りしました。」

すると別の警察官がやってきて、どうしたのか

と聞きました。ピーラが状況を説明すると、警察官は「それなら 20,000 リエル支払いなさい。そうしたら行ってもいいぞ」と言いました。

しかし、ピーラはお金が無かったので、行くことができません。でも、リュックの中には彼がここ数週間ずっと売ろうとして売れなかった古いパソコンが入っていました。オートバイを警察官に預けて、近くの質屋へ向かったのです。すると質屋はすぐにパソコンを 40,000 リエルで買い取ってくれ、そのお金で警察に支払いをすることができました。

これは、ピーラの信仰を深める出来事になりました。

「これは、神様がいらっしゃるという証拠だったのです。私が困っているときに祈りに応え、神様が助けてくださったのです。」

ピーラがこの状況をどう打破するか見守っていたヘルメットをかぶっていなくて捕まった友人達は、クリスマスプログラムのために教会に着いてから、驚きを表して「お前の神様は、本当に警察から助けてくれたな」と言ったのです。

ピーラは残りの友達をクリスマスプログラムに連れてくるため、教会員からヘルメットを借りました。

現在、ピーラは家族の中で唯一バプテスマを受けたクリスチャンです。また、ピーラは大学生である傍ら、教会で毎週コンピューターのクラスを教えています。このクラスは、今期の 13 回献金の一部によって建てられる新しい地域奉仕センターに移る予定です。

ピーラのような人々が地域に伝道していくことを可能にする、みなさまの伝道献金を感謝いたします。

下記のリンクから、ピーラを観ることができます。
bit.ly/Yin-Pheara

下記のリンクから、この物語の写真を見ることができます。

bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- 国旗に建物が描かれているのは、アフガニスタン以外では世界中でカンボジアの国旗だけです。
- カンボジア人の 95%が公用語であるクメール語を話します。フランス語は第2言語で、ビジネスや官界（役人の社会）でよく使われています。
- カンボジアの経済は、伝統的に農業に基づいています。耕作された土地の 85%はお米を育てるために使われ、他の土地は主にゴムノキを育てるために使われます。

3. 神のために飛ぶ

フィリピン



ドウェーン・ハリス

フィリピンでミッションパイロットになるため自分が米軍を辞めることになるとは、ドウェーン・ハリスは想像したことがありませんでした。

しかしその一方では家が全焼し、彼はすべてを無くしました。

米国モンタナ州のセブンスデー・アドベンチストの家庭で育ったドウェーンの夢は、ミッションパイロットになることでした。彼は少年の頃から飛行機が大好きだったのです。高校卒業後、ドウェーンは隣のワシントン州にあるアドベンチスト教会が運営しているワラワラ大学の航空学校に入学しました。

しかし、1年後にはモンタナ州に戻り、そこで航空整備士の免許とパイロットの免許を取得しました。そして故障した飛行機を購入してそれを修理し、米国陸軍州兵になりました。米国陸軍は、ドウェーンをヘリコプターの飛行訓練学校に行かせてくれました。

ただ、彼のクリスチャン生活は生ぬるいものでした。

ある日、親戚の一人から米国を訪れているミッションパイロットを紹介されました。ドウェーンはケンタッキー州まで自分の飛行機を操縦して彼

に会いに行きました。そのミッションパイロットは、フィリピンでのヘリコプター伝道のアイデアについて話しをしたかったのです。

ところが、彼に会う予定だった日の前夜、ドウェーンの姉から一本の電話がかかってきました。両親の家が、たった今火事で全焼したというのです。全員無事でしたが、実家に住んでいたドウェーンは持ち物すべてを失いました。高価なスキューバダイビングの用具やスノーボードも燃えてしまいました。

翌日、ドウェーンはミッションパイロットから話を聞きながら、こう思いました。「神様は、世的で物質的な邪魔ものをすべて取り去られたのだ」と。そして、パイロットにこう約束しました。「もし除隊することができれば、フィリピンで何か始めます。」

新しい優先順位

しかし、ドウェーンはいったいどうやって契約を解けばいいかさっぱりわかりませんでした。国家陸上警備隊との6年契約の内、まだ4年ほど残っていました。ドウェーンは祈り始めました。

「家が全焼したとき、人生の優先順位について考えさせられました」とドウェーンは語ります。「私達が地上で集める物質的なものは、永遠に比べると何の価値もないということに気づかされたのです。唯一大切なことは、自分自身の救いと他の人の救いだけなのです。」

そして聖書を読み、祈ることを毎日始めました。彼にとって初めてのことでした。

「すると、神様が私を変え始めたのです。」

祈り始めて数か月後、ドウェーンは安息日を妥協することを止めなければならない、と確信を持つようになりました。毎月、必ず参加しなければならない訓練が3日間あり、金曜日から日曜にかけて行われていたのです。過去4年間、彼は安

息日を破り続けてきました。

ドウェーンは金曜日と日曜日だけ訓練に参加し、週の別の日に飛ぶことによって土曜日の訓練を免除してもらえるか中隊長に尋ねました。しかし、それは無理だと拒否されてしまったのです。そこで次の金曜日に訓練に参加したときに、ドウェーンは土曜日の訓練を欠席し、日曜日にまた訓練に参加します、と伝えました。

「届出欠勤にはならないぞ」と指揮官は厳しく言いました。

「あなたは自分がすべきことをしてください。私は自分がすべきことをします。」とドウェーンは礼儀正しく言いました。

指揮官はどうすればいいのかわかりませんでした。今までドウェーンの軍歴は完璧だったからです。

数か月間、ドウェーンは金曜日と日曜日だけ訓練に参加し続けました。そして祈り続けました。

「主よ、どうぞあなたが居てほしいと思っておられる場所に私を置いてください。もしそれがこの場所でしたら結構です。もし、フィリピンが御心の場所でしたら、そこに行きます。」

祈りへの答え

とうとうある日、ドウェーンは指揮官に呼び出されました。

「大隊の指揮官と話し合ったが、これ以上お前の消極的な行動に時間や資金を浪費することはしないと決めた。」「名誉除隊をさせてやろう。」

ドウェーンは衝撃を受けました。すぐ神様に感謝しつつ、現場の状況を調査するためにフィリピンへの旅行を計画しました。そのあとは万事がうまくいきました。1 か月のうちに、誰かが小さなヘリコプターを購入する手助けをしてくれました。ドウェーンは自分が貯めてきたお金を使い、また予想もしていなかったところから献金が与えられました。それによってヘリコプターの運送費や税金なども含むほかの必要が満たされたのです。

「神様はすべてを備えてくださっていました」とドウェーンは言います。「自分では献金を募ることはしませんでしたから。」

現在、39 歳のドウェーンは、フィリピンで出会った看護婦の妻ウェンディと一緒にフィリピンアドベンチスト医療航空サービス（PAMAS）の指導者として働いています。PAMAS は教会の伝道を支える機関で、飛行と医療支援を通して福音を伝えています。

「ここに来て 10 年になります。神様は忠実なお方で、月毎に私達の必要を満たしてくださっています。」とドウェーンは言います。「私達の働きは成長し続けてきました。」

名誉除隊された時から現在の航空伝道の働きに至るまで、ドウェーンはローマ 8 章 28 節が実現しているのを見てきました。聖句はこう言っています。『神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています』

「神様は、すべてをうまく導いてくださいました。」とドウェーンは言います。「私達は、ただ神様の約束を信仰によって掴み取りさえすればいいのです。」

下記のリンクから、このお話に関する写真を見る事ができます。

bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- セブンスデー・アドベンチストの働きがフィリピンで始まったのは 1905 年のことで、オーストラリア人の文書伝道者、R.A.コールドウェルによって始まりました。コールドウェルはスペイン語の健康と宗教の本を売って成功を収めました。
- 1915 年に、フィリピンの人たちはアドベンチストのメッセージを初めて母国語のタガログ語で聞きました。フィリピン人のビビアノ・パニスが説教をしたのです。その結果、1916 年の初めには 104 人の人々がバプテスマを受け、116 人の教会員で教会が組織されました。

4. 説教する医師たち

インドネシア



ジェイ・トンボカン

これは、2012 年に 13 回献金を受け取ったマナドアドベンチスト病院のその後の話です。

ジェイは医師であり、またインドネシアの病院の院長としても働いています。しかし彼は毎年、その忙しいスケジュールの中から数週間の時間を講演会のために空けています。

病院のスタッフにも同様にすることを勧めています。

ジェイ医師は、公衆伝道が彼自身、そして職場の同僚達を使命の下に一致させるということを発見したからです。その使命とは、患者を治療してイエス様の再臨に備えさせることでした。

「伝道は私の朝食であり、昼食です」。ジェイ医師はスラウェシ島にあるマナドアドベンチスト病院のオフィスでのインタビューで言いました。マナドアドベンチスト病院には 150 床のベッドがあります。

地元の教区と病院が協力して企画された 2017 年の伝道集会によって、69 名の人々がバプテスマを受けました。また 2016 年には 53 名がバプテスマを受けています。このとき、どちらの講演会も医師が説教をしました。

しかし、2018 年は伝道集会を 3 回に増やした

のです。そして、1 回目の講演会は医者達が、2 回目は看護師達が、そして 3 回目目は病院管理職の人たちが説教をしました。

「外の世界に働きかける前に、私達が一致団結していなければなりません。しかし公衆伝道に参加するとき、私達はビジョンのもとに一致できるのです。」とジェイ医師は語ります。

それは、ジェイ医師がインドネシアの島の西ジャワ州にあるバンドンアドベンチスト病院で体験したことだったのです。5 年のあいだに、病院の伝道講演会を通して 4000 人がバプテスマを受けました。アドベンチスト教会は、インドネシアで 4 つの病院を運営しています。ほかの 2 つの病院はバンダールランプンアドベンチスト病院と、メダンアドベンチスト病院で、両方ともスマトラ島にあります。

2007 年 12 月に以前教団本部があった場所にマナドアドベンチスト病院が開院した当初、ベッド数は 50 床でした。しかし 2012 年の 13 回献金の助けを受け、2013 年には病院のベッド数は 150 床に増えました。

ジェイ医師によると、病院は深刻な人手不足に陥っています。資格のある常勤の専門家、特に医師が足りません。病院では 384 人の職員が働き、その内 90 パーセントがアドベンチストです。そして毎年 700,000 人の患者を治療しています。

2015 年にマナド病院にやってきたジェイ医師は、アドベンチストの医療組織で働くことなど想像もしていませんでした。ジェイ医師は産婦人科医として国立病院で 7 年間働いていましたが、安息日問題に直面し、仕事を辞めました。すぐにバンドンアドベンチスト病院に雇われ、そして、その病院で公衆伝道を、周辺地域への病院の主な働きかけに据えました。

ジェイ医師は、公衆伝道は福音を述べ伝えるだけでなく、病院の働き人たちの信仰も強める方法だと絶賛しています。病院のスタッフは説教をす

るか、伝道講演会と同時開催されている無料クリニックや健康セミナーに携わります。

「私達が出て行って他の人を力づけ励ますとき、その祝福が自分たちに直接戻ってきます。」とジェイ医師は言います。

マナド病院はチャプレンが4人いて、力強い霊的プログラムの指導をしています。毎年行う2週間の祈祷週、10日間の祈りへの取り組み、そして各部署での毎日の朝礼拝などです。2016年には9人の患者がバプテスマを受け、2017年にはさらに2人がバプテスマを受けました。

ジェイ医師は、「私達がかかっているのは、マタイ28章19、20節です。」とイエス様のご命令を指して言います。『だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。』

「イエス様がもうすぐ来られるということを私達は確信しています。」とジェイ医師は言います。

「イエス様は、もうすぐ来られます。」

みなさまの13回献金を感謝いたします。

下記のリンクから、このお話に関する写真を見ることができます。

bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- ・インドネシア共和国は巨大で、17,508の島々から成っています。面積は1,919,440平方キロメートルです。タイム・ゾーンが3つもあり、飛行機で国の端から端まで12時間以上かかります。
- ・インドネシア側のティモールは、最後の首狩り族の村のある場所として知られています。
- ・インドネシアは、毎年3,000トンのカエルの足をフランスに輸出しています。
- ・バハサ・インドネシアはインドネシアの公用語ですが、実はそれ以外に700以上の現地語があります。ほとんどのインドネシア人はバイリンガルで、現地語を母語として話し、バハサ・インドネシアは第二言語として話します。

5. 毒を盛られた宣教師

インドネシア



デシ・ナタリア・アング

18歳のデシ・ナタリア・アングは大興奮していました。同級生の女の子と一緒に、スラウェシというインドネシア島の南にあるリンボンへ宣教師として1年間派遣されることになったのです。

デシは、大きな都市の良い所の派遣先されると思いました。

ところが、彼女と友人が地元の教区事務所に着くと、そこからさらに3時間も車に乗るように言われました。それからさらにオートバイに乗り、5時間かけて山の中を走りました。道は滑りやすく、デシはオートバイから何度も落ちてしまいました。

やっと道の終わりに来たかと思うと、今度は8時間も山道を歩かなければならないと言われました。でも、最初に道ばたに建っている地元の政府事務所で山に登る許可証を得る必要がありました。事務所にはリンボンから来た人が数人いて、興奮してデシを村まで案内してくれました。そして、二人が来たというビッグニュースを伝えました。

若い宣教師たちが到着すると、村人達は伝統的な儀式を行って歓迎してくれました。焼いて、茹でた黒い羽と足の若鶏が、訪問者達に出されました。村人達は普通の鶏を食べていました。

「私達は、彼らの話す方言を知らないで、何を言っているのか理解できませんでした。そして、何をすればいいのかもわからなかったのです。」とデシは言います。

さらに重要なことに、デシはどうすればイエス様の愛を伝えられるのかまったくわかりませんでした。デシと友人は、2日間断食して祈りました。

チャコールとパパイヤ

2日目に、村の女性が助けを求めてきました。そして、二人の宣教師は彼女の母親であるインド・レコのところまで案内されました。母親は病気でベッドに寝ていました。この年配の女性は、マルコ 5:25-34 に出てくるイエス様に癒された女性のように出血で苦しんでいました。宣教師たちは医療の経験はまったくないので、どうすればいいのかわかりません。でも、チャコールを持っていたのでスプーン2杯を水に溶かし、祈ってもいいかと訪ねました。

そして、『天の神様、あなたはこの女性をチャコールで癒すことができると信じています』と祈りました」とデシはそのときを振り返って言います。「でも、私達は『他に何ができるっていうのでしょうか？』と考えていました。」

宣教師達は、二人を村に派遣した千人宣教師のキャンパスに電話をすることにしました。携帯電話の電波を受信するためには、さらに山を1時間登らなければいけません。無事に電話は繋がってキャンパスの看護師と話ことができました。看護師は、若い宣教師たちに普通の大きさのバナナと小さなパパイヤを種ごとつぶして混ぜ、それをインドに食べさせるようにとアドバイスしました。

インドの家に戻ってから、デシは彼女にこう言いました。「私達はクリスチャンです。そしてイエス様があなたを助けてくださると信じています。これを食べてください。良くなりますから。」

宣教師達はバナナとパパイヤを 30 日間、毎日インドに食べさせました。そして、汚れた肉を食べないことも教えました。すると、1 か月が終わるころには出血は止まり、インドは今まで自分に戻ることができたのです。

村人達はすっかり驚き、自分たちの病気の親戚も見てくれるようにと頼みに来ました。そして宣教師たちは、チャコールと祈りに頼り続けました。

毒についての忠告

村人達は宣教師たちの助けを感謝して、逆にアドバイスをくれるようになりました。そして、口々に村の中のある一軒家には行かないようにと言ってきました。

「あそこに行っちゃだめですよ。毒を盛られてしまいます。」と警告してくれたのです。

でも、宣教師たちはアドバイスには耳を傾けないことにしました。神様が、二人を村のすべての家庭につかわされたと信じていたからです。

二人がその家を訪ねると、30 代の女性が喜んで出てきて、すぐに食べ物と飲み物を出してくれました。

デシはカサバ（芋）と紫とうもろこしを見て、仲間の宣教師を見ました。

「お先にどうぞ」と彼女は言いました。

友人は首を振って、「いいわよ、あなたが先に食べてみて」と言いました。

デシはママ・ワンディと呼ばれている女性に向かって、食べる前に一緒にお祈りをしても良いかと尋ねました。

「私達はクリスチャンです。」とデシは言いました。「私達が行うことすべてにおいて、お祈りするのが大切だと信じています。」

祈ったあと、彼女達は出された食事を食べました—そして、何も起こりませんでした。

ママ・ワンディは次の日も宣教師たちを家に招き、食事を出しました。彼女達は食べる前に祈り、また何も起こりませんでした。そして、これが 2 週間続きました。とうとう、ママ・ワンディは村人達にこういいました。「この宣教師たちは普通の人じゃない。2 週間も食事に毒を入れ続けているの

に、ぜんぜん病気にならないよ！」

宣教師たちが毒に免疫があるという話はすぐに村に広がり、大勢の人々が神様のことを聞きにやってきました。

デシは現在 21 歳になり、スラウェシ島の最北端にあるアドベンチストのクラバット大学で英文学を専攻しています。彼女は卒業後に村に戻り、小学校を始めたいと思っています。彼女は、宣教師としての滞在期間の 1 年間を終えたあとも何度か村を訪れました。そして、今はママ・ワンディが聖書を勉強していると聞いて大喜びしています。

「あの 1 年間、私達を特に力づけてくれた聖句はヨブ 42 章の 2 節です。『あなたは全能であり御旨の成就を妨げることはできないと悟りました。』と書いてあります。」とデシは言います。「神様にできないことは、本当にありません。」

世界中の宣教師の伝道を支える伝道献金を、感謝いたします。

下記のリンクから、デシのビデオを見ることができます。

bit.ly/Desi-Natalia-Ango

下記のリンクから、このお話に関する写真を見ることができます。

bit.ly/fb-mq

6. 行方不明の妹のための祈り

タイ王国



アン・フォンチャン

アンは、クリスチャンになるつもりはまったくありませんでした。

シングルマザーに育てられたアンは、ラオスの国境に接しているタイのある村のお寺で瞑想をするのが習慣になっていました。お寺の儀式にも参加し、お寺に泊まることもありました。

ところがある日、彼女は家からバスで 15 時間ほどかかるセブンスデー・アドベンチストのミッションカレッジ（現アジア太平洋国際大学）に行くことに決めました。村を訪れたミッションカレッジの卒業生からその大学の話聞き、労作プログラムで学費をまかなえることを知りました。

「家にはお金はないけれど、私は勉強しないと」とアンは母親に言いました。「この大学に行きたいの」。

そしてミッションカレッジに行ったアンは、勉強と仕事に没頭しました。でも、神様にはまったく興味がありませんでした。彼女が安息日学校に参加した理由は、英語の上達のためでした。そして、そこで始めて祈りの力を知ったのです。

「神様は、誰のためにでも奇跡を起こすことがおできになります」と安息日学校の先生は言いま

した。「ただ、神様を信頼すればいいのです。そして信頼して従い、祈るなら、神様は祝福してくださいます。」

アンは彼の言うことを信じませんでした。

「もしあなたが心から祈るなら、神様は答えてくださいます。」と先生は続けて言いました。

それでもアンは、彼を信じませんでした。

最初の祈り

夏休みのことです。アンは、実家の村の近くのショッピングセンターで迷子になってしまいました。4 時半に母親と落ち合い、ミッションカレッジに戻るために一緒にバス停に行くことになっていたのですが、待ち合わせの場所が見つからないのです。5 時になるまで無我夢中で母親を探し回りましたが、見つかりません。心配と不安に押しつぶされそうになったアンは、安息日学校の先生が言っていたことを思い出しました。そして、祈ってみました。

「神様、もしあなたの学校に戻り、あなたのことをもっと知ってほしいと思っているならどうぞお母さんが見つかるようにしてください。」

彼女が目を開けたとき、なんと母親が彼女の目の前に立っていました。

そして、アンはバスに間にいました。彼女がバス停に着いたとき、バスが故障して出発時間が遅れたことがわかりました。

「私はとても驚きました」とアンは言います。「これが、神様の力を体験した最初の出来事だったのです。」

でも、アンはまだクリスチャンにはなりたくありませんでした。

2度目の祈り

アンの母親は、娘の近くに住むためにバンコクに引っ越してきました。そして、アンの妹も一緒

に連れてきました。ある日、母親が泣きながら電話をしてきました。

「妹が行方不明になったのよ」と母親は言いました。「どうすればいいのかわからないわ。」

アンは試験を欠席する許可をもらい、先生は彼女がバス停に行く前に祈ってくれました。「祈り続けて、神様に信頼するんだ。神様はきっと道を開いてくださるからね」と先生は言いました。

アンはバンコクに向かう途中、ずっと祈り続けました。バンコクに着くと、妹が母親と喧嘩したあとにいなくなったことがわかりました。

「妹を探してきてくれない？1 日中彼女を探していたのよ」と母親は言いました。

アンは妹を 3 日間探しました。でも、3 日目の終わりにはすべての希望を失いました。ただ、あまり早く家に帰って母親を心配させたくありませんでした。そこで、家に帰る途中に青空市場があったので服を見るために少し立ち寄りました。すると、巻き毛の高齢の女性がアンを腕を軽くたたきました。

「これから家に帰るところです」、とアンは言いました。

「あんたの尋ね人を探す必要は、もうないよ」とその見知らぬ女性は言いました。

アンが彼女を見て、「私は誰も探していません。家に歩いて帰るところです。」と言うと、女性は少しの沈黙のあと、「2、3 日のうちに彼女は帰ってくるさ」と見知らぬ人は言いました。

「もう探す必要は無いよ。」

「誰も探してなんかいませんって」、とアンは言い張りました。

女性はニコリ笑うと、歩道に座りました。

2 日後にアンが家に帰ると、なんと探していた妹がすでに家に帰っていました。アンは、すぐに青空市場で出会った人を探しに走って戻りました。しかし、その女性の姿を見つけることはできませんでした。

アンは次の日も市場に行きましたが、同じ人を見つけることはできませんでした。

祈りへの素晴らしい答えはアンを心をやさしくし、のちに彼女はバプテスマを受けました。そして宣

教師として先生になりました。現在、彼女はタイのコラート市でアドベンチスト国際宣教学校の校長先生をしています。幼稚園から中学 3 年生までを教える学校で、150 人の生徒がそこで学んでいます。

今期の 13 回献金の一部は、学校に新しいキャンパスを作るために用いられます。高校 3 年生までを受け入れられるようにし、もっと多くの生徒や学生に学びの機会を提供するためです。みなさまの献金を感謝いたします。

アンのフルネームはサンスリン・フォンチャンといいます。

下記のリンクから、アンを見ることができます。
bit.ly/Ann-miracles

下記のリンクから、このお話の写真を見ることができます。

Bit.ly/fb-mq

宣教メモ

- ・タイは、東南アジアの中でヨーロッパに植民地化されなかった唯一の国です。タイ語では、国の名前はパセツ・タイといいます。「自由の国」という意味です。
- ・タイには、一番小さな生き物と一番大きな生き物がいます。世界最小の哺乳類はマルハナバチコウモリで、世界最大の魚はジンベイザメです。
- ・タイの首都はバンコクで、1,500 万人近くの人々が住んでいます。